

第25回 最上川水系流域委員会 議事概要

日時：令和2年11月25日（水）14:00～16:30

場所：山形県 JA ビル 9階大会議室

- ：委員からの質問・意見
- ：事務局からの説明・回答（国）
- ：事務局からの説明・回答（県）

議事1：最上川直轄河川改修事業〔最上川水系河川整備計画（国管理区間）〕 の再評価について

（副委員長）

- 盆地部での河道掘削の事業量は、砂防ダムの整備とも関係してくると思われるが、検討は行われているのか。
- 国管理区間では、定期的に縦横断測量を行い、土砂の量を確認しており、特に大きな堆積は確認されていないため、砂防ダムとの関連性については、特に大きな影響はないと判断している。

（委員）

- 洪水時のホットラインを出すタイミングについて教えて欲しい。
- 昨年度からレベル1、2という言い方で基準となる河川の水位、避難の段階を分けて住民に呼びかけている。その水位に達しそうな予測となった場合、ホットラインとして首長へ連絡し、避難について早めの検討を行ってもらえるようにしている。
- 令和2年7月豪雨時は、夕方の段階で夜間に計画高水位を超える予測であったため、危険水位に達してからホットラインを行うのではなく、到達前から情報提供を行った。
- 基本的には毎時の予測結果を基にホットラインを行うが、自治体側から問い合わせを受けて水位等の情報提供を行う場合もある。

（副委員長）

- 令和2年7月豪雨時に下野観測所において短時間で水位が上昇しているが、首長とのやりとりの中で、今後の参考となるような事はなかったか
- 降雨から水位を予測しており、雨の降り方から急激な水位上昇もある程度は推定できる。しかし、予測には振れ幅があるため、今後予測精度の向上を引き続き行っていく必要がある。

また、首長とは水位が下がる局面でも、避難勧告等を解除すべきかどうか等について、やりとりをさせていただいた。

- 住民から情報提供等について、意見・要望等はなかったか。

- 住民から自治体側にはいろいろな意見があったかもしれないが、国交省に対し自治体から具体的な要望はなかった。

(委員)

- 河道掘削には2種類ある。狭い場所を広げる掘削と、断面維持のための維持掘削。再堆積に対する掘削を行うと、下流に影響が出るのではないか。そういう予測などは行っているか。
- 最上川下流に最深河床高の低下箇所がある。最上川上流区間では、橋脚付近の局所洗堀がみられる。また、部分的な堆積が発生する箇所もあり、不等流計算等を行い必要な河積を確認し、毎年対策を検討している。
- 去年の洪水を受けて、今後土砂の動きに変化があると想定される。このため、委員の意見等を踏まえながら検討を行っていく。

(委員)

- 上流域であれば、砂防ダムなどで土石は止められるが、ダムの上下流で土砂環境は変わる。土砂環境はこれからも変わっていくので、山の環境も考えていかなければならない。
- 山の環境については、流域治水プロジェクトにおいて林野庁等もメンバーに入れて、検討していきたいと考えている。

(委員)

- 令和2年洪水の要因分析は十分にできていない。想定外のものであれば、現在の計画、対策を変えていく柔軟性は必要ではないか。
- 計画に含まれていない箇所における対策について必要性等を現在検討中である。遅くならないうちに、地域の方々に安心してもらえるような対策をして参りたい。

(委員)

- 整備計画完了後、整備箇所をどのように維持していくのか。
- 出水後の変化を分析・点検し、対応が必要であれば計画を見直すことも考えていくものだと思っている。委員の方々や地域の方々の意見をいただきながら、地域がより安全になるように進めていく。

議事 2 : 最上川中流消流雪用水導入事業 (岩ヶ袋地区) の事後評価について

(委員)

- 二つの施設の運転期間はどれくらいか。
- 12月から3月までの期間である。
- 基本的には毎日か。
- 利用時間は、除雪日と土曜日、日曜日、祝日の朝2時間、昼と夜に1時間半。土、日、祝日は1月と2月が原則となっている。

(委員)

- 雪を活用するような事例はあるか。
- 尾花沢市では、貯めておいた雪を溶かした冷気で庁舎の冷房に利用しているという事例がある。

その他

(委員)

- 川と一緒に生活できる環境、長いスパンで考えた時の最上川の水環境、水の使い方、人間以外の生活空間等、もう少し違う視点で見た時のお金のかけ方、使い方もあっていいのではないか。そういうアプローチをしてほしいとも思う。
- 違った視点については、これからもご意見いただきたい。

(委員)

- 河川敷内の樹木について、大きくなる前に処理しておけば大変な事にはならないと思われる。
- 寒河江ダムの下流河川において鮎が生息しにくい環境となっている。対策を是非検討してほしい。
- 樹木についてはなかなか対応できていないのが実情である。我々だけでは対応出来ないところを地域の方と一緒に知恵を出し合いながら対応していかなければいけないと思う。
- 寒河江川の河川環境については、ダム事務所、あるいは河川事務所等と話をしながら一緒になって考えていくことで対応できればと思う。

(委員)

- 昭和50年代と今では河川環境は大きく変わり、悪くなったと感じる。気候変動の影響で大きな洪水が発生するようになると、河川環境と治水とどちらが大事なのかと考えてしまうが、どちらが大事というものではない。整備は進めて行かなければならない。それでも足りなければ、その次に更に整備を行って行かなければならな

い。この状態がこれからも続き、昔の環境には戻らないのだろうという印象を持っている。

- 改修と環境、二者択一とは考えていないが、これからどうやっていけばいいのか、より良い方法を多数の方々と意見を交わしながら、考えていきたい。

(委員長)

- グリーンインフラ等、生態系を使いながら、という考え方も出てきている。今後に期待している。

情報提供について

1. 最上川水系河川整備計画〔県管理区間〕の進捗について

(委員)

- 最上小国川ダムは当初予定していた効果を発揮しているか。
- 今年3月完成だが、昨年時点で本体は完成しており、昨年の台風19号の時にある程度の効果が発揮された。ダム容量の半分ぐらいまでの貯留だったが、下流で数十センチの水位低減効果があった。
- 県民を巻き込んで非常に話題となった事業だったので、整備後の効果もしっかりと公表していったほうがよい。
- 県のHPで公表しているが、プレスリリースもしながらPRしていきたい。

(委員長)

- 水位情報はすごく有効だったが、アクセスが集中するとHPが動かなくなる。何か対策は考えているか。
- サーバーが古くなってきているので、順次改善を行っている。水位情報を発信するシステムも登録上限を改善している。現在、問題点として、現サイトはPC用でスマートフォン対応となっていないため、検討を行い対応していきたい。
- 国交省でも令和2年7月豪雨時にサーバーがパンクしたことを受けて、サーバーの容量改善を図っている。

2. 流域治水等について

(委員)

- 流域治水を担う組織の中に、教育機関を追加してほしい。教員、学生は、日常の中で、学校で過ごす時間が多いため、治水対策がなされていることがあまり感じられない。学校で学ぶ機会があればよい。
- 防災教育は結構進んでいるが、治水・流域の活用といった教育はあまり進んでいない

と感じている。高専レベルではあるが、治水に直接連携できるような研究を行うことが結構ある。そういった連携を教育機関と取って頂き、一緒に教育活動に携わるような機会を設けてもらいたい。

- 流域治水を進める上で、本省の方でも文部科学省に入ってもらい進めている。最上川でも考えていきたい。

審議結果について

1. 最上川直轄河川改修事業〔河川整備計画（国管理区間）〕の再評価について

○事業の継続は妥当と判断する。

2. 最上川中流消流雪用水導入事業（岩ヶ袋地区）の事後評価について

○改善措置及び今後の事業評価の必要はない。

- 審議結果は後日開催する事業評価監視委員会に報告する。

以上

